

# 生物が記録する科学ーバイオロギング可能性 四時間目

佐藤克文

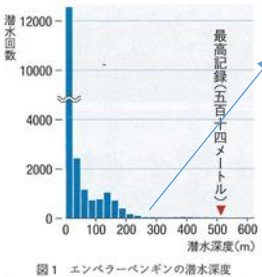
課題 筆者の説明の特徴や工夫をとりえよう。

## 《学習の流れ》

①筆者の説明の特徴や工夫点をまとめたワークシートに、当てはまる言葉を書き入れよう。

## 【筆者の説明の仕方工夫】

①「**図**」や「**写真**」の活用



写真B アデリーペンギンが水中に飛び込む様子(上)と水中から飛び出す様子(下)

### 《効果》

図にして表すことで、視覚的に数を捉えることができ、筆者の言いたいことを補足できる。また、写真を取り入れることで、示したい場面が【**具体的**】的にイメージしやすい。

②「**事実(出来事・調査結果)**」と「**筆者の考え(疑問・推測・判断)**」に分けて文章が書かれている。例えば次の文・・・「**事実**」か「**考え**」のどちらが書かれているか見分けよう。

○氷の裏側のくぼみに潜む魚をついばんで食べていたのだ。【 **事実** 】

浅く潜ってその目的を果たせるならば、わざわざ百メートル以上も潜る必要はないわけだ。【 **考え** 】

○潜水時間についても、二十七分三十秒という鳥類の最高記録が生まれるいっぽう、ほとんどの潜水が六分以内で終了していた。【 **事実** 】

なぜ最大能力に比べて、浅く、短い潜水ばかり行うのだろうか。【 **考え** 】

### 《効果》

このように、【 **事実** 】と【 **考え** 】を明確に分けることにより、論の進め方がシンプルになり、読者にとって分かりやすい。

③「**問い**」と「**結果**」が繰り返され、話が進んでいくという構造になっている。

- 【 **問い** 】 ペンギンは、本当にこれほど深く長時間、潜ることができるのだろうか。
- 【 **結果** 】 ほとんどの潜水が二十メートルより浅く、百メートルを越えていない。
- 【 **問い** 】 なぜ、ペンギンは深く潜らないのだろうか。
- 【 **結果** 】 氷の裏側のくぼみに潜む魚を食べていた。

### 《効果》

このように、【 **問い** 】と【 **結果** 】や考察が繰り返されており、出た結果の中からまた【 **問い** 】が生まれ、新たに論が進んでいくという構造になっている。読者の思考に沿った形で展開されており、読者を話に引き込むことができる。